

## 執筆者紹介



\*Steven D. CARTER (スティーブ・カーター) カリフォルニア大学アーバイン校教授、平成11年度国文学研究資料館客員教授、国際日本文学研究集会委員会委員。著書に*Three Poets at Yuyama*. Berkley: Institute of East Asian Studies, UC Berkeley, 1983., *Unforgotten Dreams: Poems by the Zen Monk Shotetsu*. New York: Columbia University Press, 1997., *Regent Redux: A Life of the Statesman-Scholar Ichijo Kaneyoshi*. Ann Arbor: Center for Japanese Studies, University of Michigan, 1997 などがある。



\*湯沼誠二 (かたぬま・せいじ) 北海道教育大学岩見沢校教授、国際日本文学研究集会委員会委員。著書に『高村光太郎におけるアメリカ』(桜楓社、1982)、『儒学と国学』(桜楓社、1984)、『幸田露伴研究序説—初期作品を解説する—』(桜楓社、1989) がある。



\*熊慧蘇 (XIONG Hui-su) 文教大学大学院研究生。1991年10月来日。1993年より文教大学文学部で日本語日文学を勉強し、日本語教員養成コース一級を修了、卒業論文は「日中近世文学比較研究—日本における『金瓶梅』の受容」である。次いで東京学芸大学大学院教育学研究科に在籍し、教育学修士号を得た。修士論文は「日中文学中における楊貴妃像—その影響関係と解釈の相違—」である。研究分野は近世文学(日中比較文学)である。



\*Andrea RAOS (アンドレア・ラオス) フランス国立東洋言語研究所大学院生。国文学研究資料館外来研究員。ヴェネツィア大学卒業、卒業論文は『源氏物語』蜻蛉巻の研究と翻訳。フランス国立東洋言語研究所修士課程修了、修士論文は藤原定家「二見浦百首」の研究と翻訳。同博士課程に進学して現在に至る。



\*Sonja ARNTZEN (ソーニャ・アンツェン) アルバータ大学教授、本集会招待研究発表者。著書に *Ikkyu Sojun. A Zen Monk and his Poetry*. Western Washington College Press, 1973., *Ikkyu and the Crazy Cloud Anthology* (東京大学出版会、1986), *The Kagero Diary: A Women's Autobiographical Text From Tenth Century Japan*. Ann Arbor: Center for Japanese Studies, University of Michigan, 1997. などがある。



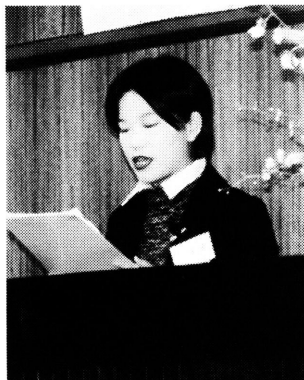
\*鄭炳浩 (JUNG Byeong Ho) 筑波大学大学院生。高麗大学卒業・同大学院修士課程修了、1996年から筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科に在籍、研究分野は明治初期の文芸論。論文に「文芸用語としての〈真理〉のスペクトル—坪内逍遙の文学論における「真理論」の言説編成の背景をめぐって—」(『文学研究論集』17、筑波大学比較・理論文学会、2000.3)「二葉亭四迷のナショナリズムのありよう—露国赴任前後の〈国際問題〉へのまなざし—」(『植民地主義とアジアの表象』筑波大学文化批評研究会、1999.3) がある。



\*李応寿 (LEE Eung Soo) 世宗大学校 (ソウル) 日語日文学科副教授。韓国外国語大学日本語科および大学院を修了。東京大学大学院比較文学比較文化専門課程で修士号取得の後、同博士課程を満期退学。日本演劇史の韓国語訳をすすめる。川上音二郎・貞奴関連のほかに『『夕鶴』—民話から舞台まで』(『比較文学』28、1986)、『『田楽』考—その展開と比較文化のための試み』(『日本文化研究』7、1992)、『東アジア獅子舞の系譜—五色獅子を中心に—』(『日文研フォーラム』掲載予定)などの論文がある。



\*長島要一 (ながしま・よういち) コペンハーゲン大学東アジア研究所長。1982年、同大学よりPh.D (日本文学) 取得、1986年より同大学東アジア研究所教授。主要著作に『森鷗外の翻訳文学 「即興詩人」から「ペリカン」まで』(至文堂、1993)、*Objective Description of the Self - The Literary Theory of Iwano Homei*. Aarhus University Press, Aarhus 1997. がある。



\*張榮順 (CHANG Young Sun) 筑波大学大学院生。高麗大学大学院日本語日文学科を修了後、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科に入学。研究分野は日本近代文学。論文に「谷崎潤一郎の浅草表象と脚色される支那趣味—『鮫人』小論—」(『植民地主義とアジアの表象』筑波大学文化批評研究会、1999.3)や「『魔術師』における浅草—『魔術師』論—」(『日本語と日本文学』29、筑波大学国語国文学会、1999.8) がある。



\*李郁蕙 (LEE Yu-hui) 広島大学大学院生。台湾の淡江大学日本語学科卒業後、広島大学教育学部研究生として来日。1995年4月同学教育学研究科日本言語文化教育学専攻博士課程に入学。論文に「《南方》の発見—台湾の日本語文学試論—」(『広島大学教育学部紀要』第二部46、1998.3)、「『台湾万葉集』を読む—「日本語人」の文学として—」(『広島大学教育学部紀要』第二部47、1999.3)、「植民地の政治力学と〈場〉の表象—龍瑛宗『パパイヤのある街』—」(『比較文学』42、日本比較文学会、2000.3)など。



\*Kanlayanee SITASUWAN (カンラヤニー・シタスワン) チュラロンコン大学助教授、本集会招待研究発表者。チュラロンコン大学文学部卒業後日本へ留学、東京外国語大学特設日本語学科にて学士および修士号取得。ワシントン大学 (U. of Washington) で博士号取得。博士論文は「Language Usage in Kyoogen」。論文に「タイにおける日本語教育」、「能と狂言」、「狂言」他に『河童』をはじめ他の日本短編小説と狂言を多数翻訳。